多田の里 だ よ り



多田小学校通信　　令和４年６月１日号　児童数配布

「校長先生、お話があります」

　ある金曜日の休み時間、校長室へ戻ると４人の６年生が入り口で待っていました。４人に校長室へ入ってもらうと、「校長先生、お話があります。」と言うのです。校長室で話がしたいとなると、たいていは緊張が伴う話だと勝手な予想が頭の中を走ります。でもそんな気持ちは出さずに、まずは話を聞いてみることにしました。４人の話はこうでした。

　「昼休みに私たちは大縄をしています。小さい学年の人たちも来てくれているのですが、もっとたくさんの人と一緒に交流をしたいのです。そこで、ポスターを作ってみんなに呼びかけようと思うのですがいいでしょうか?」ということでした。

　断る材料はありません。ＧＯサインを伝えるのみです。

　「いいやん。やってみたらいい。」そこから４人は、どこにポスターを貼ると効果的か、子どもたちの動線を想像して考えていきます。「各学年の前がいいかな」「下駄箱のところがいいんちゃう」とより効果を高めるにはどうすればいいのか思考を巡らせ、校長室で議論を始めました。その姿を見ているととても頼もしく、子どもたちにいろいろなことを任せてもいいのではないかと感じたのでした。

　受動的ではなく能動的な活動です。我々大人(教職員も保護者も地域の方も)は、子どもたちのことをついつい未熟な存在として保護しなければならないと思いがちです。でも子どもたちは様々な大人の姿を見て学び毎日新たな自分を作っていきます。昨日の姿と今日の姿は同じではないはずです。大人のこちらも少しずつ保護を減らし、子どもたちの自己決定権を尊重していくことが必要なのかもしれません。我々もむかし子どもでした。いつ大人になったのかその日のことは覚えていませんが、気づいたら大人になっていました。その過程を尊重し、自分から考え動いていくことを支えるのが我々大人の役割のように思います。

　校長室から４人が出ていく前に少しアドバイスをしました。「学年の先生を巻き込んだらいい。そこでもっといいものができるかもしれない。」と伝えました。４人の後ろ姿がとても頼もしくというよりも楽しそうに見えました。自分で考え友達と協議し実行に移していく。主体的に生きている姿です。大いに期待しています。そしてその姿を見守り、困ったときには一緒に考える大人でありたいと思います。

　４人のことを大人の仕事やボランティアでの活動に置き換えてみても同じです。能動的なのか、それとも受動的なのか、そこに大きなギャップがあるのは明らかです。大人になったとき、子ども時代からの経験の積み重ねが大事なのかもしれません。大いに伸ばしてほしい姿です。６年生の姿を伝えたくなる「お話があります。」でした。

今後の予定について

６月１日現在　各学年の予定は学年だよりをご覧ください



着任の先生の紹介



水泳のあとに困るかもしれません

　新型コロナウィルス感染症による臨時休校から、プールでの授業を 2 年間していません。そのため学校のプールに入るのが初めての学年が 1、2，3 年生ということになります。あるとき、スクールサポートスタッフの先生がいいことを教えてくれました。それは水着を脱ぐとき、「ひもがほどけない！」と苦労するかもしれないということでした。その姿が目に浮かびます。ご家庭でも蝶々結びの方法とほどき方、一度練習してみてください。練習するといえば、スーツを着るため、ネクタイの結び方の練習をしたことを思い出します。今では簡単なことですが、初めてするときには思いのほか苦労したことを覚えています。結び方の練習、よろしくお願いします。